

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 真空場の積極活用による量子技術の開拓
2. 研究代表者： 鈴木 はるか（丹治はるか）（電気通信大学 レーザー新世代研究センター 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、真空場を通常的光子と同じように活用するための基盤技術を開拓し、真空場による光や物質の制御の可能性を探り、これらを通じて、産業や医療などの様々な分野で多くの波及効果をもたらしたレーザーに続く、社会において有用な新たな“光”としての真空場の活用を目指している。フェーズ1では、コロナ禍による真空チャンバの導入遅れで実証実験が完了していないが、要素技術の開発を試行錯誤しながら進めており、概ね当初の予定通り計画が進んでいる。フェーズ2に向けて最低限の準備が整ったと言える。他の創発研究者との共同研究がいくつか行われているのも評価できる。挑戦性の高い研究であるが、技術的な課題はよく理解しており、フェーズ2では、世界初の結果が創出されることに期待する。

以上